

# 慰霊から始まった教育支援

ミャンマー教育推進プロジェクト同志会  
団長 西村真悟

特別号 平成二十一年八月五日 発行



靖国神社みたま祭り神門前 英霊に捧げられた献納提灯



平成14年3月 パラオ共和国ペリリュー島  
(日本の真南3,000kmに位置し大東亜戦争の激戦地)  
慰霊祭祀 水屋神社 久保憲一 宮司 日本国建立平和記念碑にて

## 「慰霊から始まった教育支援を回想して」

大東亜戦争の記憶から生まれた物語のなかで、「ビルマの堅琴」ほど愛されたものはないだろう。私もその物語を愛した。その結果、平成六年に始めてビルマを訪れたとき、主人公の水島上等兵と同じように「慰霊」の気持ちになっていた。

先の戦争で、あのビルマの大地に三十万人の日本兵が投入され十九万人がビルマの土に帰ったのだから、皆様もきっと同じだろうと思う。そして、有志の皆様が実施された、このミャンマーの小学生を支援する旅も自然に「教育支援と慰霊の旅」になっていたのだった。

ビルマから国名を変えたミャンマーの旧首都ヤンゴン郊外に日本人墓地がある。その慰霊塔の横にビルマ派遣軍の戦友会有志が建てた碑がある。そこには「ビルマの人々は我々が勝っているときも負けているときも、変わらない仏心をもって我々に接してくれた。ありがとう。」と刻まれている。そして、ミャンマー国内を旅してこの日本人墓地に集った我々も、この碑に刻まれたミャンマーの人々に感謝する兵士の心と同じ心になっていたのだった。

ミャンマー各地には日本軍慰霊碑があり今もミャンマーの僧侶と住民は、そこに花を供えてくれている。そのようなミャンマーの人々に感謝する中で、大勢の子供達にノートと鉛筆そして色鉛筆を渡すことができた。ヤンゴンに帰ってその様子を説明した婦人は、受け取った子供の大きな無垢の瞳を思い出して泣かれたものだ。また、我々旅行団は、小学校の校舎新築の支援をすることができた。そして、日本に戻って我々に送られた、新しくなった校舎の写真や、子供達の元気な授業風景の写真を眺めた。我々の「ありがとう」というミャンマーへの思いが形となった写真だった。

そのような時に、ヤンゴンを中心としたミャンマー南東部を史上最大のサイクロン（台風）が襲った。同じ時期に、中国四川省で大地震が起こったが、ミャンマーのサイクロンの被害は四川省の地震の被害を遥かに上回っていた。千以上の小学校校舎が吹き飛び、人も家も家畜も田畑も流されてしまった。日本では、四川省地震の報道の影が目立たなかったがミャンマーは深刻な打撃を受けた。

早速私は昨年七月、日本ミャンマー友好議員連盟として渡辺秀央会長とともにサイクロン被害調査のためミャンマーを訪問した。サイクロンが通過したところの木造校舎はほぼ全滅していた。住民の生活に直接影響を与える何より深刻な被害は、物流の中心であるヤンゴン港周辺の航路が沈没船のため通行不能になっていることだった。

この被害視察には駐ミャンマー日本国大使館から大使が同行し、ミャンマー政府首相始め閣僚との懇談にも大使が同席し、その上で、我々は、東京に戻って日本がミャンマー復興のために援助すべき具体的項目を政府に説明した。もちろん、学校校舎の再建そしてヤンゴン港復興は急を要すると説明した。

サイクロン襲来から一年が経過した現在、ミャンマーの努力により各地に鉄筋コンクリート造りの校舎が建てられ、ヤンゴン港の沈没船もあと三隻ほどを残すのみとなっているとの報告を受けた。もちろん日本政府も多くの援助を実施している。

遥かミャンマーを思えば、選挙が終われば、また、慰霊と感謝の心をもつ同志の皆さんとミャンマーを訪れたい。

平成21年(2009)7月吉日

西村真悟



インレ湖 後ろは湖水に建つ高床式村落



水上小学校にて文房具の手渡し  
以上2枚の写真は平成17年訪緬時

## アジア大陸、ミャンマー国



- ① プタオ、この町はミャンマーの最北部に位置し、雪に覆われたチベット山脈に囲まれている小さな町、日本国草の根援助でこの地にも学校が建ちました。
- ② コヒマ、インパールに関しましてはホームページ「ビルマ戦線簡単史」を参考にしてください。
- ③ ミッチーナ、ミャンマー最北の州カチン州の州都
- ④ バモ、中国との国境貿易が盛んな町
- ⑤ チンドウィン川やイラワジ川は大東亜戦争インパール作戦時多くの日本兵が犠牲になりました。
- ⑥ モンユワはサガイン管区最大の都市
- ⑦ マンダレー、ミャンマーの中央に位置しヤンゴンに次ぎ第2の都市、この地サガインヒルで慰霊をしました。
- ⑧ タウンジーはシャン州の州都
- ⑨ タチレク、タイの国境メーサーイと川を挟んで向かい合う町、タイ側から多くの観光客、ミャンマー側からは出稼ぎのミャンマー人で賑わっている。
- ⑩ バガン、数千の仏塔（パゴタ）や寺院が点在するミャンマー屈指の仏教聖地、平成14年に「西村眞悟と行く慰霊の旅」でこの地を訪れた際、当地の小学校へ文房具等を贈呈しました。ダビニュー寺院弓部隊の慰霊碑にて慰霊祭
- ⑪ **インレ湖ジャド村に建つ水上小学校が今回の取材地です。**平成17年2月に訪問
- ⑫ シットウェー、ベンガル湾に面する河口の街、バングラデシュと国境を接するヤカイン州の州都
- ⑬ ピイ、イラワジ河の重要物流中継地点
- ⑭ バゴ、バゴ管区の州都、同志会が支援している貧乏寺子屋の所在地、寺の境内にある第55師団慰霊碑にて慰霊祭
- ⑮ パテイン、エーヤワディ管区の州都ミャンマー第4の都市
- ⑯ モーラミヤイン、モン州の州都ミャンマー第3の都市、この街から約6 km南下すると泰緬鉄道のビルマ側起点の町タンビュッザヤがある。
- ⑰ ダウエー、タニンダーリ管区の州都
- ★ ヤンゴン、ミャンマー最大の都市、2006年10月に首都をネーपीドーに遷都までは首都であった。日本人墓地にて慰霊祭トンテの小学校もヤンゴン管区です。

※ ホームページへのアクセスは「慰霊と教育」で接続します。

同志の会会員のお一人から、インレ湖の小学校のその後の問い合わせがあり、今回、4年ぶり平成17年（2005）2月20日に訪れたインレ湖の水上小学校を取材訪問をしてもらいました。

インレ湖へは、飛行機ですとヤンゴンから1時間15分ですが、今回の取材はバスで片道18～19時間を掛けての4泊5日の取材だそうです。飛行機の場合大東亜戦争中、日本軍航空隊が駐屯していたヘーホー空港、バスの場合シャン州の州都タウンジー行きを利用します。



←文房具屋→

店内は文具のみならず、三輪車、おもちゃ、自転車のタイヤ、等々を売っていてさながらミニ百貨店という感じです。



今回の贈呈用帳面と鉛筆はニャウンシュエというインレ湖に面した小さな町の文房具屋で買い求めました。

この船は外国人用で綺麗で救命具も装備しています。帳面300冊、鉛筆495本はこの船をチャーターして運んだそうです。



インレ湖は東西に12km、南北に22km  
乾季には東西に6km、南北に15km



↑市場帰りの地元民



↑浮畑用に水草を集めている地元民



↑ ジャド村水上小学校

贈呈文房具と生徒、右側の高学年5年生から、順に低学年と並んでいます。後ろは校長を含め教師5名、先生の一人Daw Chit Htweさんは母親の加減が悪く本日は欠席です。容姿に多少の変化が有りましたが4年前に訪問したときと先生方は全員同じでした。

ブルーの板の間をよくご覧下さい。隙間から幼稚園生がこちらを見ています。雨季になると校庭は沈むそうです。



ジャド村

(Kyartaw Village Nyaungshwe township)  
127世帯、162家族、人口731名  
(男性：378名、女性：353名)

ジャド村小学校生徒数内訳

幼稚園：17名（今年から再開）  
1年生：20名（男子14名、女子6名）  
2年生：21名（男子13名、女子8名）  
3年生：15名（男子9名、女子6名）  
4年生：11名（男子5名、女子6名）  
5年生：13名（男子7名、女子6名）  
合計97名

5年生は日本では中学1年生に該当します。

↑ 家々を廻り生徒を乗せ集団登校、後ろは民家

写真で見る限り4年前の平成17年(2005)に訪れたときの風景となんら変わらないのを報告され何故か癒されるものを感じました。以下は贈呈の様子です。



↑校長先生から帳面と鉛筆を各生徒に手渡し  
朝晩は涼しいので長袖着用



↑校舎の端まで並び順番を待つ



トンテの小学校と同様電気は来ていません。



教師6名は全員女性です。



↑高学年5年生の生徒達  
取材日 平成21年(2009)7月20日、21日

4年前の時、ジャド村水上小学校で我々もこうして一人一人の生徒に帳面と鉛筆を渡し、ひと声掛けながら、しかも日本語で、言葉は判らなくとも気が通じたのか和やかな雰囲気だったのを思い出しました。その時の様子を一枚、左端：ちらっと顔だけの先生、生徒、ガイドのトンさん、三宅博さん、右：団長の西村 眞悟さん



当時を偲んで三宅 博 氏コメント抜粋

今回初めてのビルマ、ミャンマーでしたが、先の大戦を通じて日本とミャンマーとの間柄がいかに深い縁で結ばれているかを本当に実感しました。一九万人の戦死者の方々は、日本を見守ると同時にこのビルマの国を守っているんじゃないかと思っています。帰りましたら早速仏前あるいは氏神様、お墓へ報告に行きたいと思っています。心からミャンマーの方々へ改めて私も申し上げたいと思います。



平成17年2月ヤンゴン日本人墓地にて慰霊祭

各教師に5万チャット（日本円換算約¥4,750）を贈呈



校長より生徒に成り代わっての礼状➡



←寄付金授与の感謝状

Daw Myint Myint Kyi 校長 左の男性は現地ガイド

- ・生徒に代わって、校長より礼状訳文：日本の皆様へ1人3冊のノートと5本のペンを普通科Kyartaw小学校97人の生徒に代わってお礼します。
- ・寄付金授与の感謝状：5万チャットも日本の皆様からの私への善行、仕事に対する報酬を受け取れて大変嬉しく思ってます。ご好意に感謝します。皆様方の健康とそして皆様方の仕事の発展を願っております。
- ・他の先生方の礼状は校長先生の礼状と酷似してましたので紙面の都合訳文は載せませんでした。



Daw Khin Wai 先生



Daw Kyi Myint 先生



Daw Soe Yu 先生 5年生担当  
欠席のDaw Chit Htwe先生には5万チャットを校長に託しました。



Daw Yin Mon Aye 先生  
2009年7月20日21日取材